

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101554		
法人名	社会福祉法人 清潮会		
事業所名	グループホームしおさい		
所在地	長崎県西海市崎戸町蛸ノ浦郷17番26号		
自己評価作成日	平成22年8月31日	評価結果市町村受理日	平成22年12月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成22年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで海の見える場所にあり、景色や環境は懐かしさがある。オープンキッチンとなっている台所からの調理の匂いに誘われるかのように利用者のほとんどは広いスペースのリビングに自然と集い、職員との会話も弾む。家庭的な雰囲気の中で明るく楽しくゆっくりとをモットーに1人1人のできる事をして頂きながら、又、利用者様・職員お互い助け合い、ご家族様の協力を得ながら、その人らしい生活が営めるようサービス提供を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「明るく、楽しく、ゆっくりと」を目標に掲げ、利用者のごちよい生活を最優先した支援を実践している。事業所内は窓が大きく明るく暖かな印象がある。掃除が行き届いており清潔で季節を感じる草花、飾りがあり、職員の声かけにも配慮がある。利用者本位の支援のために職員自ら勤務時間帯の変更を検討し実践していることも優れた点である。利用者の安全確保のため、災害訓練は月に一回実施されている。また、法人では福祉施設運営に必要な研修を計画し行っており、事業所からも毎回数名が受講し、職員間で情報の共有を図り介護サービスの質の向上に努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を掲げており、地域密着サービスとしての理念は法人内2施設のグループホームで共有している。事業所独自としては別に目標を掲げ、全職員で理念を共有して実践につなげている。	法人の理念とは別に事業所で独自に「明るく、楽しく、ゆっくりと」の目標を作り、全職員で理念と目標を共有している。利用者の日々の暮らしが楽しくゆっくり過ごせるよう、職員は実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員全員が積極的に挨拶などに努めている。又、盆踊りや敬老会など地域の行事に毎年、利用者様と共に参加し、近くの神社のおくんちでは獅子舞等の奉納踊りをホーム駐車場で披露して下さるなど、地元の人々との交流を図っている。	自治会長や民生委員を通じ、地域行事の案内や配布物等を届けてもらったり、近所の神社のおくんちの見学や、隣家から野菜のおすそ分けがあったりと、地域の一員として交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の有志のグループホームで組織する「西海市認知症ケア研究会」に参加し、認知症についての勉強会をかさねている。認知症の様々な実践事例を元に支援の方法を探究し合い、地域に役立つ事ができるよう努力している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催毎に利用者様お1人ずつのサービスについて報告、話し合いを行っている。今年度は職員の研修の受講内容についても報告を行い、サービスの向上に努めている。	奇数月に1回、西海市担当課や包括支援センター職員はじめ、規定のメンバーで開催されている。時には医師の参加もあり、行事事案内、報告や利用者の現状、職員の受講研修の報告など行われている。自治会長から、集会所の使用について提案があり、活用するなどサービス向上に繋げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議には市の担当者が必ず出席頂いている。文書や電話のやりとりだけではなく、お互い顔を合わせたの情報交換は貴重なものであり、協力関係づくりに努めている。	西海市とは法人本部が届出を行っている。事業所自体は、近くにある支所へ申請の手続きや、相談等で窓口に出向いたり、電話でやりとりするなど良好な関係が築かれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止委員会」が設置されており、法人内の研修に全職員が参加し理解できている。身体拘束廃止委員を中心に日頃から職員相互で身体拘束となっていないかを常に話し合っている。	月1回、身体拘束廃止委員会が開かれ、事例の検討や日常の言葉、声かけにも特に注意している。玄関の施錠は夜間のみである。全職員が研修に参加し、言葉による拘束も含めた身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で「身体拘束廃止委員会」を設けており、その中に虐待防止も含まれている。新人職員へは先輩職員から通報の義務など介護者の役割について日頃の業務の中で伝達されており、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方が今の所いないが、今後勉強する機会があればぜひ参加していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際、家族に重要事項説明を十分に行い玄関に提示している。不安・疑問等がある場合にはその都度電話や面会時等いつでも説明し、理解して頂けている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望はいつも気兼ねなく表して頂けるよう積極的に働きかけている。又、施設内に意見箱を設け、いろんな意見が反映できるよう努めている。	家族の面会時に、利用者の様子を伝え意見や希望を聞いており、ベッドから畳に布団の利用に変更された例がある。浴槽内の滑り止めのマットも利用者の意見で取り入れるなど意見を運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、毎日のミーティングの折、職員1人1人の意見や提案を聞き、反映している。	毎日の申し送りや、毎月の職員会議で職員から活発に意見が出ている。当直明けに落ち着いて引き継ぎができるよう、遅出の勤務時間を変更するなど職員の意見を反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、職員個々の努力や目標、実績、やりがいなど、各自が向上心を持って働ける環境づくりを行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は極力受講するように配慮しており、職員それぞれの段階に応じて研修受講している。法人内では各委員会が主催する研修会があり、開催日を分け、全職員が参加共有できる工夫をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西海市内のグループホームで結成された「西海市認知症ケア研修会」に所属。毎月1回(第二水曜)にケア研修などの勉強会を行い、発表や意見の交換を行ったりしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>不安な様子が見られるなど変化がある時は早めに自然な形で話し合える場を作り、十分な話しを聞き、受け止め、安心して頂くなど信頼関係は生まれている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>常日頃、気兼ねなく何でも相談して頂けるよう接しており、十分な話し合いの機会を設けるよう努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分な話し合いの上で今何が1番大切か支援相談員とも相談をしながら見極め対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日頃の生活活動を一緒に行い、昔話の中から経験を聞きながら教えて頂き、又、一緒にできた喜びを分かち合っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会の折、機会あるごとに近況を詳しく話しており、家族も行事と一緒に参加して頂くなどお互いに共有し、支え合っている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>散歩の際や島に戻られる時など時間の許す限り会いに来て下さり、季節の行事や身近な出来事など詳しく話して頂き、馴染みの人や場との関係が途切れないよう努めている。</p>	<p>職員は利用者に同行している行きつけの美容院や近所のスーパー、病院受診時に地元の人と話す機会がある。また、家族の協力によりドライブついでに自宅に戻り近所の人に会ったり、孫の結婚式に出席したりと、これまでの馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>同郷の方が2組おられ、話も良く合い、お互いに支え合っている。又、お互いに意見が通じるよう職員が間に入り、声かけし、見守り、利用者様同士の関係を支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も利用者様、職員を訪ねて寄って下さり、一緒にお茶を飲みながら近況を伺ったり、時々電話でも近況を知らせて下さるなど関係は続いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	平日頃、本人様や家族様の面会の折に話しを伺ったりし、職員全員がカンファレンスや職員会議等で話し合い、その人らしい生活が出来るよう努めている。	日々の支援で利用者に寄り添い思いや意向を把握するよう努めている。意思表示の少ない利用者には、家族の情報や生活歴を基に状態を見ながら、一人ひとりの思いについて担当者がインフォメーションシートを作成し、把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	食後、お茶の時間などご利用者のさりげない日常会話や家族様からの情報収集を元にサービス計画に取り入れ、経過観察、状態の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に合った過ごし方をして頂き、その日の状態を観察、記録、申し送りなどで現在の状態を全職員が把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の状況については常に職員間で話し合っている。本人様や家族様との日頃の会話を通して希望を伺い、あるいは思いを汲み取り、サービスの有り方について職員間で話し合っている。必要に応じて主治医の意見等、様々な情報を元に現状に即した介護計画の作成に努めている。	3ヶ月に1度カンファレンスを行い、日々の状態から気付きをあげて本人や家族の希望を聞き、計画を立てケース会議で検討し、家族に同意を得ている。状態に変化がなければ短期6ヶ月、長期1年の評価を行っているが、様子を見ながら状態に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、些細なことでも気付いた事があれば個別のカンファレンスノートに記入し、職員間での情報共有に役立っている。それらをもとにサービスの実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で変化があった時など、ご家族、職員間で話し合い、既存のサービスに捉われない柔軟な支援サービスを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、行われているとは言い難い。 今後、市や自治会長さんを通して地域資源を把握する事から始めたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望されるかかりつけ医との関係作りに努め、連携をとりながら適切な医療を受けられるように支援している。	利用開始時に主治医は24時間対応で往診の依頼ができる協力医療機関に変更してもらっているが、以前からのかかりつけ医を希望される場合も意向に沿って家族の協力も得ながら受診支援を行っている。受診結果は連絡を取り合い把握している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は主治医に相談し行っている。受診や往診の際、生活の様子や気付きを伝え、アドバイスを受けた時は職員間で申し送りを共有し、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関してはご本人、家族様、主治医を交えた話し合いを行い、安心して治療できるように、又、入院中は病院関係者と情報交換や相談を密に行い、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、早い段階からご本人や家族様、主治医と何度も話し合い、全員で方針を共有し、医療機関と連携をとりながらチームとしての支援に努めている。	重度化、終末期については、契約時に口頭で方針を説明している。また、段階に応じて本人、家族、関係者との話し合いを行い方針を共有している。ただし、重度化、終末期に向けた方針は文書化されていない。	重度化、週末期に向けた事業所の方針は、文書化すると共に家族に説明し同意を得ることを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内において利用者様の急変や事故発生時についての研修が実施されている。講義と実践にて全職員研修を受け、身につけている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練で数名ずつ夜間を想定して行っている。新人職員にも実践してもらっている。消防署の方に利用者の状態を把握して頂き、避難方法を統一している。消火器の設置場所も指示を仰ぎ、窓付近へ移動している。	毎月避難訓練を実施し、年2回は消防署立会いで行っている。スプリンクラーも設置しており、非常通報装置は猶予期間内に設置する予定である。近所3件には非難時に協力を依頼しているが、地区消防団との協力体制はまだ確立していない。	災害対策として地区消防団との協力体制を構築し、利用者を安全に避難誘導できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束廃止委員会で作成された禁句集に伴い人権とプライバシーを損なわない声かけに努めている。特に排泄の声かけ時、本人様だけに関わるようお知らせ、誘導している。	排泄、入浴時の声かけには配慮しており、本人のそばで小さな声で話しかけている。個人情報には鍵がかかる所定の場所に保管しており、職員には守秘義務の誓約書を取っている。写真掲載は事前に尋ね同意を得ている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつの時でも声かけ行い、必ず本人様に説明し希望を伺っている。あるいは仕草や表情から思いを読み取り、自己決定に基づいた生活の支援に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビが好きな方は仲の良い利用者様同士でテレビを見ながらお話をしている。読書が好きな方には新聞や本を好きな場所(自室・リビング)で自由に見てもらっている。一人一人がそれぞれのスタイルで過ぎて頂いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や小物類はほとんど家族様が準備して下さるので、それらが1番似合っており、理容・美容もご本人の希望の店に行けるよう努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今日は何を食べたいか尋ねたり、下準備や味見、下膳など出来る事は職員と一緒にして頂いている。職員も同じテーブルで食事を摂り1人1人の状態を把握し、会話をしながら楽しく食事が摂れるよう対応している。	利用者ごとの嗜好は常に尋ねており、季節を感じる献立で提供している。利用者に応じて刻みなどの対応、食事介助を行っている。行事食、誕生日は特別に献立を考え、時には弁当を買って戸外で食べるなど楽しく食事ができるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事毎に個人記録に残し把握できている。入浴後にも水分補給を促している。希望によって自室に白湯を入れたペットボトルを置き、いつでも飲めるようにしている。あるいは水分摂取をあまり好まない方へは果物やゼリーなどで確保できるよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後促している。義歯のない方はうがいをし、自力で困難な方は介助にて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握しながら、その人に合った誘導、促しを行うよう努めている。尿意がない方へもその人のタイミングを計り誘導し、トイレでの排泄を心がけ支援している。	夜間はトレーニングパンツ、パッド使用の利用者はいるが、昼夜おむつの使用はない。職員は、排泄パターンを把握しトイレでの排泄を基本に支援しており、布パンツで自立している利用者もいる。職員間で情報を共有し支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分補給や食物繊維の多いメニューを心掛けている。さつまいも、ごぼう、バナナ、ヨーグルトなどを食事やおやつに取り入れている。又、主治医と連携し、服薬の調整を行う。便秘の原因や及ぼす影響についても十分理解している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望する方には毎日でも入って頂いている。入浴を拒む方には声かけや介助の職員を替えたり時間を替えたり工夫している。あるいは声かけも日にちを空けてみたりもしている。入浴を好む方、そうでない方、その方々に合ったタイミングで入浴して頂けるよう努めている。	湯温は好みに合わせており、湯船のお湯はオーバーフローしている。希望に応じて同性介助で対応し、車椅子は2人介助で入浴支援している。また、しょうぶ湯や入浴剤などで入浴を楽しめるよう支援しており、拒否の場合はタイミングを見て声かけしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマ着用についてはそれまでの生活習慣を尊重し様々である。ベッドではなくたみに布団を敷きたい方へは居室の床にたたみを並べ布団を敷けるようにしている。又、昼寝の習慣のある方はどこで寝るかも自由である。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも見れる場所に保管し、変更の際は個人記録、カンファレンスノートで確実に伝達している。錠剤の服用が難しい方に対し、主治医、家族様に相談し粉状にして頂き、無理なく服用できるよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、接客、掃除、話し相手など様々な役割を持って頂いている。外気浴やレクで体を動かすなどして気分転換を図っている。又、おやつ時は好みのものを選んで頂けるよう、飲み物やおやつをいくつか用意している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、散歩、買い物などを取り入れている。玄関先での外気浴を皆さんで楽しむ事もある。行事を通じて他の利用者や家族様と一緒に出かける機会を作っている。又、家族様の協力で普段は行けない所へ連れて行かれる場合もある。	近所の公園やウォータデッキまで散歩をしたり、病院への通院時に買い物やドライブなどを行っている。車椅子の利用者も外気浴や近くを散歩している。夏には花火大会の見物、四季の花見も出かけるなど外出する機会を設けて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご本人が家族様へお任せしていたり、金銭管理が困難であり家族様希望にて所持していない方がほとんどである。本人様が安心するだろうと小遣い程度のお金を家族様が財布に入れている方がおられる。いつも手提げに入れて持ち歩き、所持していることで安心されている。利用者が買いたいものがある時はその都度家族様に相談し、立替金として購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自ら番号を押し掛ける事は困難だが、いつでも電話ができるようにしている。利用者様から申し出がなくても時々家族へ電話をし、本人様とかわったり、家族様から電話があった際にもできるだけ本人にかわり会話ができるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは全体的に明るく、利用者様、職員の会話も穏やかで、外からの騒音もなく生活音が心地良い雰囲気である。季節の花を飾ったり、絵手紙を展示している。	朝から換気をし掃除機、モップかけの掃除をしている。リビングには季節の花が飾られ壁には利用者が制作した作品が飾ってある。正月は玄関に門松やしめ縄を飾り、季節を感じる工夫をしている。臭気はなく、気になる音もない快適な空間である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓辺にはソファーや椅子を置き、いつでもどこでも座れるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様にも相談し協力してもらい、以前使用していた家具や置物などを持ち込んで頂いている。布団も使い慣れたものであり、好みで電気シーツを使う方やテレビを自室に設置している方もおられる。たたみの希望にて床にたたみを敷き詰め、和室の感覚で心地良く過して頂いている。	掃除は毎朝行っており、利用者と職員が一緒に行っている居室もある。テレビやダンス、テーブルなど本人の好みに沿って置かれており落ち着いて過ごせる部屋となっている。ポータブルトイレは清掃後、日光消毒をして汚物室に保管しており、居室らしさに工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、洗面所などに利用者様の使い勝手を考慮した手すりの設置と、それぞれの場所を示す貼り紙をして案内をしている。利用者様によっては室内にも手すりがあり、自立や安全につながる配慮を行っている。		